

豊かな農地を守るために ナガエツルノゲイトウ（特定外来生物※） の侵入・定着を防ぎましょう

※外来生物法で指定された、生態系や農林水産業に被害を及ぼす海外起源の生物。栽培・移動等は許可が必要。

ナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）

学名： *Alternanthera philoxeroides* 長柄蔓野鶏頭

- ・南米原産の多年草（国内の系統は種子をつけない）。
- ・水草で河川や池で大群落となり、水面をマット状に覆う。
- ・茎は千切れやすく、節や根から活発に再生。拡散しやすい。
- ・水陸両生なので、畔や畑地にも侵入。耐塩性も高い。
- ・関東以西の河川、水路、水田、畦畔などに侵入相次ぐ。



繁殖力
大



侵略性
大



夏～秋に細い柄の先に
球状の白い花をつける



再生力
大



↑茎断片から萌芽
根断片から再生→

農業被害の例

水利施設



ナガエツルノゲイトウ群落

水路を閉塞し、
取水・排水の障害に。



水田

（株）協友アグリ提供



除草剤効きにくく
防除困難。



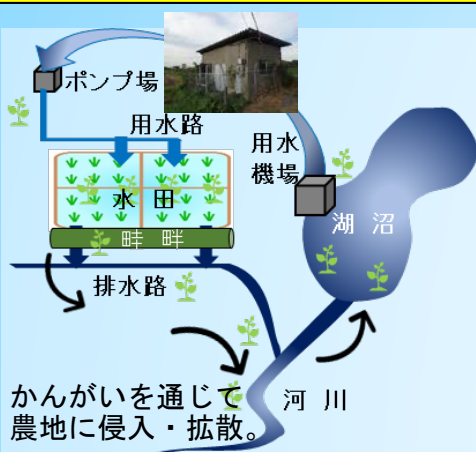
繁茂すると
収穫不能に。

畑地

畑内や休耕地にも
侵入し、雑草化。



農地への侵入経路と拡散様式



給水栓付近から定着。

畔塗りで畦畔に断片
が埋め込まれる。→



畔から水田内に
侵入。



農機等に付着した
断片は他の農地に
移動しやすい。
洪水や河川の氾濫
によっても拡散。



ナガエツルノゲイトウの見分け方

花がない場合

☑ 葉は対生

☑ 葉の先はややとがる ☑ 茎の中心は空洞（ストロー状）



☑ 茎はなめらかでざらつかない ☑ 節からよく分枝する

節に短い毛

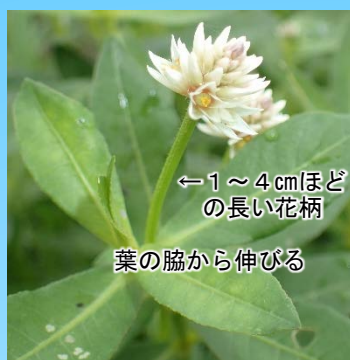


花がある場合

☑ 小さな花が集まった球状花

☑ 長めの花柄がある

☑ 花柄は葉の脇から伸びる



水田や畦畔などにみられる間違えやすい植物



・球状花は葉の脇にくっつく
花のない時期は見分けが困難

・茎に毛がありざらつく
・葉に目立つ鋸歯がある
・花は球状でなく平たい

・葉の先は丸い
・葉は互生（交互につく）
・花は黄色

・葉は3小葉
・葉に白い紋
・球状花の直径2cm

～ナガエツルノゲイトウの防除とまん延の防ぎ方～

ナガエツルノゲイトウの侵入が報告されている地域（環境省ウェブサイト※1などで紹介）では、農地に侵入・定着させないために、水利施設や水路、給水栓まわりなどをこまめに点検し早期発見に努めます。

※1 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-06.html>

もし農地周辺でナガエツルノゲイトウが見つかったら（具体的な防除・対策例）

水田内

- ・水稲用除草剤（初期剤や初中期剤）の体系処理で防除します。とくに給水栓まわりや畔際の防除を徹底します。
まん延ほ場では後期剤の使用と水稲刈跡に茎葉処理剤（グリホサートなど）の散布が効果的です（降霜期までに）。
 - ・河川など取水源に定着している地区では、**給水栓口にネット等を取りつけ**、かんがい用水経路での侵入を防止します※2。
 - ・循環かんがい地区では、特に代かきや田植え時の落水時に**水尻にザル等を置いて**、茎断片の流出を防止します※2。
- ※2 回収したナガエツルノゲイトウは水気を切り、ゴミ袋に入れ固く口を結び、焼却処分してください（詳しくは地方環境事務所等にお問い合わせください）。



畦 畔

- ・刈り払いによって断片が農地に侵入するおそれがあるので、定着が見られる畦畔では除草剤中心の管理を行います。**茎葉処理剤の効果的な散布時期は9月以降～降霜期までの期間**です。
- ・農地も畦畔際の防除（茎葉処理剤の秋散布など）に努めます。

水路まわり

- ・除草剤が使用できないので、**遮光率100%の耐水シート（推奨規格：＃7000）を敷設**します（遮光率が99%以下だと完全に枯死させられません）。
 - ・シートで覆っても完全枯死には長い時間（1年半から数年程度）かかるので、**耐久性のあるシート**を選んでください。
- なお、外来種駆除活動には農林水産省の多面的機能支払交付金などが利用できます。市町村の担当窓口にご相談ください。
- また、ナガエツルノゲイトウの侵入が確認された農地とトラクターなどの農機を共用する場合、未侵入農地の作業を先にしたり、**侵入農地での作業後は泥落としなどの農機洗浄を徹底**してください。

農研機構では新たな侵入外来雑草の管理技術の研究・開発を実施しており、得られた知見はウェブサイト上などで更新していきます。